令和８年度　第２回学校運営協議会　会議録（要点記録）

令和８年９月 25 日

１　開 催 日 時　　令和８年９月 25 日（金）　午後１時 30 分から午後３時まで
２　開 催 場 所　　浜松市立江南中学校　会議室
３　出 席 委 員　　池田　澄子、井村　元子、大石　亨志、小澤　和男、木村　弘子
　　將口　麻衣、鈴木　定明、鈴木　美佐男、西尾　進治、宮本　貴史
４　欠 席 委 員　　なし
５　オブザーバー　　徳田　純一（五島協働センター）
６　学　　校　　横原　昇司（校長）、牧野　貴宏（教頭）、岡本　陽子（教務主任）
　　川上　恭子（CS ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ）
７　教育委員会　　磯部　志保
８　傍　聴　者　　なし
９　会議録作成者　　ＣＳディレクター　川上　恭子
10　議長の選出　　大石会長が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。
11　協 議 事 項

（１）　学校評価アンケート（前期について）＜令和８年度生徒アンケート集計結果（１学期）＞

（２）　創立 50 周年祭について

（３）　生徒減少に対する取組みについて

12　会 議 記 録

司会の牧野から、委員総数 10 人のうち９人の出席(13:30 時点)があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（１）　学校評価アンケート（前期について）＜令和８年度生徒アンケート集計結果（１学期）＞

資料をもとに教務主任の岡本より説明。

・10 年前の数値と比べると、ずいぶんよくなったとわかる（大石委員長）。

（２）創立 50 周年祭について

校長より素案をもとに説明。来賓の範囲について検討中である。来月の自校開催の文化発表会でキャパを予見したいと考えている。次回の協議会の場で報告したい（校長）。

・前回の意見を取り入れてもらっていると理解している。江之島高校のダンス部も全国レベルなのでぜひ声をかけてみてはどうか（西尾委員）。

・江之島高校のお琴演奏も素晴らしいのでぜひ（木村委員）。

・アトリエに江南中の生徒と江之島高校の生徒の作品を展示したいと考えている（校長）。

・式典に来た地域の人の動線に江南中の特色や普段取り組んでいることを見てもらえるように工夫してはどうか（大石会長）。

・招待の対象をオープンスクール的に小学生を含めてはどうか（西尾委員）。
・収容可能人数によるが検討する（校長）。
（３）生徒減少に対する取組みについて
校長より別資料のＣＳだよりをもとに説明。学区小学校から学区外中学校に生徒が流出するのをなんとか食い止めたい。はまクル・卓球の紹介。学校としては手を尽くしているが、地域からのご意見をいただきたい（校長）。
・制服について女子生徒でもスラックスを選択できるのか（木村委員）。
・できる（校長）。
・プールの開放はしているのか（木村委員）。
・監視の目や費用などの理由から困難である（校長）。
・体育の時間に好きな競技をやるということは難しいのか（木村委員）。
・学習指導要領を満たさなければならず、どこまで可能か難しい（校長）。
・エアコンは全教室にあるのか（木村委員）。
・ついていない部屋もあるが特別室も含めほぼ全教室にエアコンがついている（校長）。
・なぜ他校を選択するのか。現役保護者の方がご存じでは？（西尾委員）。
・友達が行くから。部活の問題や海に近いから危険と考えている（？）（將口委員）。
・学区の一部が他校の真横にある。そのエリアの子たちについては難しいのではないか。
・はまクルの卓球を広く宣伝をし、小学生から取り込めれば、この中学校に来てくれるのではないか。長期休みの学校開放もよいが、教員の働き方改革の観点から長続きするのか不安である。それよりは地域クラブの拠点にしてはどうか。制服を変えるもいいと思う。地域がいかに学校を残したいと考えるか。親が子に対し学区の学校に行きなさいという流れにならない限り非常に厳しいのではないか（鈴木美委員）。
・小さい学校になるのは仕方ないが、中学校がなくなることは阻止したい（校長）。
・子が学区外に就学していると地域の役員を免除されるという考えもおかしい。地域の問題ともつながるように思う（鈴木美委員）。
・こういった問題は“今”力を入れてやらないといけない問題であると考える。学校が手を尽くしているというのであれば、地域が動かないといけない（西尾委員）。
・地域の声がなかなか届かないと言われているが、今、砂丘小があるのは児童数が減っても地域が学校を残したいと声を上げた結果だと思う（鈴木美委員）。
・人口が増えない、これは地域でどうにかできることではない。子どもが増える可能性がない、生産性がない（木村委員）。
・地域は活性化について考え、学区については教育委員会が考えることと考える（西尾委員）。

・「うつわ」はあるのに「人」がいない（木村委員）。
・それは議員であり地域連合の範囲、それぞれがそれぞれの努力をすべき時である（西尾委員）。
・人口も・子供も減っていく、ただ他校に流れるのだけは防ぎたい（校長）。
・学区と地域は一緒にしたほうが何かとよい。残したいという運動を起こさないと存続が厳しいのではないか（鈴木美委員）。
・市の動きとして団地に人を呼ぼうとする取り組みをやっている。今は苦しいと思うが、もうしばらくがんばってほしい（井村委員）。